

土砂災害から身を守るために

有終西小学校五年 銭井 喜入

大雨の二ユースを見ていた時においちは  
んが、昔大野でも大雨で大きな被害があつた  
と教えてくれました。どのような災害だつた  
かインターネットで調べてみました。

昭和四十年九月に旧西谷村、現在の  
大野市西谷地区を中心にした集中豪雨によつて山崩  
れや土石流などの土砂災害が起きたり、河川  
の氾濫が起きたりしたそうです。そして旧西

谷村では村の約7割の家が流されたり埋ま  
たりして村はなくなつてしまいました。

そのようなことがあつて大野市ではさまざ  
まな対策を行いました。

対策の一つが、ダム建設です。ダムに水  
を貯めて、少しずつ流すことで河川の氾濫を  
防ぐことができます。

他にも大雨によつて崩れ出た土砂と雨水で  
起きる土石流から人や家を守る砂防えん堤と  
いうダムがあることを知りました。コンクリ

1トで造られた大きな壁のようなもので、流れてきた土砂をせき止めることができず。山の中にたくさん造られており、土砂災害がらわたしたちを守ってくれています。

対策の二つ目が災害への備えや自主避難所の開設です。自主避難所は災害が発生した時や、避難指示が出る前に住民が自らの判断で避難する際に利用できる施設のことです。それからみんなの家には市役所から配られたハザードマップがあります。ハザードマップに

はわたしたちの住んでいる場所でどんな被害が考えられるかとか、避難所はどこかとかを書いてあります。

災害はいつどこで起こるかわかりません。いつ起こってもいいように日ごろから準備しておくことが防災対策の一つになると思います。わたしは防災対策のために四つのことを考えました。一つ目はハザードマップを確認して危険な場所を知ることです。わたしの家はまちなかなので被害はないと思っていましたし

たが、千年に一度の確率の大雨が降ると三十センチ浸水することがわかりました。土砂による被害はなさそうですが、わたしの通う小学校は土砂災害けいかい区域に入っていることがわかりました。二つ目は家族で防災会議を開くことです。家族で家の中の安全な場所避難する場所、連絡方法などを決めます。そうすること、家族みんながそろっていなくても家の安全な場所や自主避難所に避難ができます。三つ目は非常持ち出し品を準備することです。

特に飲料水、食料、救急用品、ラジオ、かい中電灯、着がえ、携帯トイレなどをリュックに入れておくと良いです。四つ目は地域の避難訓練に参加することです。練習をしておくことで、実際に災害が起こった時に地域の方もスムーズに避難ができます。以前、大野市の防災キャンプに参加した時に、そうじをする係や情報を伝える係、食事の準備をする係などに分かれて活動をしました。わたしはそうじ係でゴミ箱の設置を手伝いま

した。避難所では、避難しているみんなで協力して避難生活をしていくことが大切だと学びました。

最近では大雨だけでなく地しんでも土砂災害が多く発生しています。今回、土砂を止める砂防えん堤があることを知り安心しました。が、それだけでなく自分自身も災害に備えることで、自分の身を守りたいと思いました。